
モンスターハンターカイザ～変態転生者の狩猟記～

元副会長

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モンスターハンターカイザ―変態転生者の狩猟記―

【Nコード】

N6742X

【作者名】

元副会長

【あらすじ】

世界間のバランスの為に神様に殺されてしまった青年『倉田雅人』は、神様から貰った『仮面ライダーカイザ』としての能力とピークル三台を引っさげ、モンスターの蔓延る世界へ旅立った。

しかし、転生の際の条件として抜かれた記憶が、まさかの『仮面ライダー』について『！？』

こうして、会って早々の神様にまで手を出そうとする変態による、『ハンター』としての日々が始まるのであった。

・・・もちろん記憶は戻ります。

そして持たされた力はカイザだけではなくようで・・・。

3rdと2ndGを中心に、物語は進行していきます。

プロローグその1（前書き）

やっと二つ目の小説を始めました。

基本的に主人公の一人称。

たまに他のキャラ、または三人称で進行させます。

そして・・・もう一つと比べて『アレ』な描写が多いです。

あくまで比べてですので、ぶっ飛んではないですよ。

プロローグその1

キイイイイイツ!!

ドンッ!!

ゴキッ!!

「・・・」

キイイイイイツ!!

ドンッ!!

ゴキッ!!

「・・・」

キイイ・・・

「何度もやらんでもええわ!!」

ピッ

どうしてこうなった！

さっきから何度も見せられてる『事故』の映像。

あの事故に遭っていたのはどう考えても俺だ。

そして車に見事に撥ねられた俺の末路はといえば・・・

「電柱に頭ぶつけて首折り・・・うわぁ」

あそこまでキレイにゴキツといくと、逆にすごいと思えるのは俺だけか？

いや、だって首だけ当たって折れるっておかしいだろ。

それにしても酷いよな。せつかく近所のおもちや屋に入荷された『フォー〇ドライバー』を買いにいくとして、少しでも早くと近道を選択したというのに、その結果がこれだよ！！

やっぱあれか。

前の日にエロゲ買って夜更かししまくってたから注意力が落ちてたんだな。

うん、そくに違いない！！

ん？『自分がどうなってるのか理解してるのかコイツ』だって？
もちろんさあ！

俺死んだんでしょ。

だってこんなにも自分が死ぬところ見せられたらさ、嫌でも理解できちゃうわけだ。

で、真っ白な空間で大きなテレビを前にしてソファーに座ってふんぞり返ってる、そんな俺がようやく至った謎というのが、

「じじい……どこよ?」

「ようやくその疑問に至ったか……」

!?、何者だ!?

後ろを振り向いた俺の目には、信じられないものが映った。

こゝここまで大きなモノは見たことないぞ!!

世の男ども（もちろん俺自身も）が崇める理由がわかるというもの!!

「胸でつけえ……」

「はつきり口に出しているが」

おつといかんいかん。

つい口に出てしまっていたのか。

だがそんなことは置いといて、さてさて……こんな立派なモノを持つ女性は、一体どれほどのものなのか……

「……」

「?、どうした?」

「……リインフォースにイノベーターの目って」

「これはそういう名前だったのだな」

自分の目だけを指差してそう言う巨乳女性。

リインフォースは知ってるんかい！

なんだ、俺死んでなかったんだな。

夢だ夢、それしかないよもう。

だってあれだよ？某アニメのキャラが自分の目の前にいたらさ、これはもう絶対に夢だわ。

っていうか何だよ！リインフォースにイノベーターの目ってさ！

破壊と調和の融合ってか？やかましいわ！！

とにかくさっきの映像は捏造か正夢で、俺は病院のベッドの上か自室のベッドの上で眠ってるんだろう。

事故に遭ったとしても遭ってなくても、俺は生きてるはずだ！

「はぁ、現実から目を逸らすのはよくないと思うのだが。それに話し合いには『この目』がぴったりだと聞いた」

その人、ああもうリインでいいや。うるさいぞ！

夢の中に出てきておいて、何が『よくないと思う』だ！

……でもホントにいい胸してるな。

内容はアレとはいえせつかくの夢だ。

これぐらいしてもいいよな？

モミモミモミ・・・

「んなっ！？何をする！」

モミモミモミモミ・・・

いやゝ、これはいい。

実にいい！！

大きくてハリがあつて、でも柔かい！

幸せだなあ、夢とはいえこんな美人の胸を揉めるなんてさ。

リンっぽい人も最初こそビックリしてたけど、だんだん身を擦じらせてきて・・・堪らん！

「いつ、いつまで、あつ・・・続けっ、る、んっ！！」

うゝん、そりやもちろん夢から覚めるまででしょう？

でも覚めて欲しくないなあ。

このままずっと続いてくれたら最高だね。

ついでだから服の下から・・・

「アッ・・・ま、まてっ！」

遅い！

すでに侵入後さ！

胸のあれまであと少し・・・

「いい加減に・・・んっ・・・しろっ！！」

「ヒデブツ！」

ドンッ！

・・・つてえ。

く、首が異様に痛い。

夢の中とはいえ、何度も折られてたまるか！
・・・？

『何度も？』

なーんか妙な違和感を感じるんだが。

何故がおかしなほどに、『このこと』を否定したらいけない気がする。

それになんだこの記憶・・・。

第三者視点だけの映像を見てただけなのに、なんで俺自身の視点からの記憶がある！？

いや、今更不思議がることもないか。

なんせ自分で一回その結論に至ってるわけだし。

ああ・・・今度こそ大体わかった。

俺、『倉田雅人』（大学三年生）は

「死んだんだな」

「こ、ここまでくるのに時間がかかり過ぎだ！」

そんなに怒らないでくれよ。

ていうか顔が真っ赤だし、表情も緩んでるから意味ないぞ。

「ねえ？神様？」

「・・・随分あっさりしているのだな」

「そりゃ、死んだら次に会うって言ったら閻魔大王か神様でしょ。

そして閻魔様は映姫様しか認めんからな！」

「だから私は神と・・・確かに間違っではないいな」

やっぱり神様なんだ。

で、ここに神様がいるってことはさ、あれでしょ？

俺には第二の人生が待ってるんじゃない！？

「流石に察しがいい。その通りだ」

なんだよこの神様、心読めるんじゃないか。

そういうやさつきから言ってもないことに反応してたっけ。

なのにさつき俺の『挨拶』を回避しなかったってことは、この人淫ら・・・

「それ以上考えたら地獄に送り込んでやるからな」

「すいませんでした」

で、神様も暇じゃないんでしょ？

さっさと本題に入ったらどうです？

「ぬう・・・仕方ないな。ハッキリ言おう。お前には別の世界に転生してもらいたい」

「それは、あんたのミスで俺が死んだからかな？」

もしそうだったらたっぷり特典をもらうさ。

「残念ながら違うな。しかし、私が殺したことに変わりないか」

「はい？それってどういう・・・あんだまさか！？」

目の前の神様は表情を消して頷いた。

つまり、俺の考える中で一番酷いやつみたい。

「そうだ。お前は私が・・・『ワザと』殺した」

「ふっざけるなよ！？押し倒してやろうか！！」

「そ、それはよせ！」

あ、顔真っ赤。

やめろって、もっと押し倒したくなるじゃないk、違う！！

「説明は、もちろんしてもらえるんでしょうね」

「ああ」

——十数分後——

俺が神様から聞いたところによると・・・

・複数の世界と俺の世界とのバランスが崩れた。
ディ○イドじゃないんだから・・・。

・どうやら俺の世界のが最も強くなっているようで、バランスを取るためにはこちらから数人、特殊な能力を付けて別の世界に送り込む必要があるらしい。

・いろんな世界に人間を送らなければいけないが、その分それぞれの世界に送り込むのは一人でいいらしい。多分世界が多すぎるのだろう。

能力付きの人間を分ければ、こちらは数が減り、あちら側は『力』の有る者が入って均衡が保てるわけだ。

・で、厳正なるクジ引きの結果、俺がその中の一人に選ばれた・・・
・と

「うん、やっぱり押し倒そう」

バタツ！

「ま、待て！落ち着いて話を！」

「アホか！なんだよ厳正なるクジ引きって！なめてんのか！！」

「いやっ！だから特殊な能力を、やっ！そこはダメだ！！」

「勝手に殺されて、能力程度で満足するか！謝罪するならその体よこせー！」

ホント何なんだよ！

そして俺はこんなところでなにやってんだか。

・・・自分で言うのもなんだが、先が思いやられる。

とりあえず、この神様の反応でもみて楽しもうか。

ブログその1（後書き）

とりあえず今回の反響を見てみます。

次回は一週間以内に投稿しますよ。

プロローグその2（前書き）

私的にお馴染みの方たちから感想を頂けたので、プロローグその2、投稿します。

これから先の投稿は・・・不定期で、どうかな？

ヘタに決めるとどっちも潰れそうで今はちょっと怖いです。

それではレッツゴー！

ブローグその2

―押し倒してから数十分後―

とっても可愛がってあげました。

Bまでよ？

でもかなりやらしい事になっております。

「ハア、ハア、ハア……や、やっと諦めたか」

「いんや、能力貰ったら続きな」

だから体制はこのまま。

パツと見は馬乗りだけど、痛くないように膝立ちで耐えてる。

「優しいのかそうでないのかわからん奴だ」

「素直に親切を受け取らない神様には……」

そう言ってゆつくり手を伸ばしていく。

神様も焦ったみたいで、何度も首を縦に振る。

これもまたいい！！

で、俺の能力か……。

んなもんやっぱりさ、アレしかないでしょ！

「仮面ライダーだな!!」

「そ、それは流石に程度が・・・すまない、続けてくれ」

手をわきわきさせて、俺は友人から『悪魔の笑み』と呼ばれるほどの笑みを浮かべると、文句を言おうとした神様も引き下がった。
ここから俺のターン！

どうせ心が読めるなら、声に出さなくてもいいだろ。

まずはどのライダーか・・・だな。

俺としては、しっかりとした性能を持った奴がいい。
かといって、無駄にチートなライダーもよくない。

RXとかクウガとかディケイドとかな!!・・・あ、文字伏せ損ねた。

誰も気にせんだろうからいいか。

でも、あえてチートで『俺TUEE!!』でも楽しいんだよなあ・・・
・三人とも大好きだし。

とりあえず、昭和はなしかな？

スーパー1やZXみたいなメンテ必要なやつは使い辛いし、ストロ
ンガーなんて選んだら最後、絶対に手袋外せないよ!!

よく考えたら改造人間だから、転生に向いてなさすぎる。
その世界に改造する技術がなかったら意味ないよね！

そうするとRXも昭和縛りでだめか・・・。

とにかく、平成のライダー軍団の中から誰か選ぶしかない。

数多過ぎるけどね！

第一に、響鬼系は却下。

いちいち服が燃えてたら、その世界のムシヨ行き決定だ。

ダブルは無理。

変身するのは俺一人で十分だ！

絶対にそのほうがいい。

でもジョーカー、アクセル、スカル、エターナルは可。

龍騎系は、どうかなあ……。

モンスターの餌が……ねえ？

クウガ、ブレイドはリスクがでかい。

カリスになるには人捨てるしかないし、他も融合係数高いと、強いけど人外決定だしな。

クウガも同じだ。

ついでに言うと、オーズもそう。

俺欲望を押さえる自信ないぞ。アッチ方面だけど。

そうになると、アギト、ファイズ、カブト、電王、キバ、ディケイドか。

アギトでG3-X以外を選んだら前世の記憶が危ういし、ファイズは死ぬかもしれん。

カブトは強いだろうなあ……まさに『つい〇これる〇ら』だろ。

『いろいろ』できそうだが……堂々と襲う俺のポリシーに反する！

電王とキバ選んだら、もちろんあの連中が付いて来るだろ。

そうだったら、夜の行動も丸分かりじゃないか！
プライバシーは大事よ！

ディケイド、これが一番無難か？

ん？神様が首横に振ってる。

あ、そうか。

バランス取りの為に送り込んでいて、最終的に俺がぶっ壊したら意味ないのか。

ならどうすれば・・・はっ！

そっぴや一月ちよつと前って『カイザの日』だったよな・・・。

その時、俺の体に稲妻走る

これだ！！

体は記号だけ埋め込んで、さらに『草加雅人』ならぬ『倉田雅人』なら大丈夫♪』状態にしてもらえばいい！
名前も同じだし。

そしてもちろん俺専用で！！

あん？だったら他のライダーでもそっぴという処置してもらえばいいって？

ダメだ！俺はカイザに運命を感じたんだからもう反論は許さん！！

・・・やばいRX引きずってるわ。

でもいくら草加仕様になっても、結局は変身し続けたら死んじやうよな。

ここは神様に O N E G A I すれば大丈夫っと。

あ、そんなに期待した目しないでいいから・・・期待してるのか!?

ま、まあそれは置いて、ビークルは三つとも欲しい。

それぞれいいところがあつて好きだ!!

とりあえずこんなところか。

神様も『仕方ない』と言つた表情で頷いてるし、これで決定だ。

「でも転生するわけだから、さすがにここでは受け取れないか」

「そうだ。その世界で手に入れるしかないが、確実にお前のもとに届くようにしよう」

なら心配ない。

あ、そういえば肝心な事聞いてなかった。

「俺の転生先つてさ、俺が知ってる世界？」

「もちろんそうなのだが・・・な」

まだなんかあるのかい・・・。

続きをどーぞ。

「お前の知っている世界のどれに飛ばされるかは・・・私にもわからヒヤンッ！」

さすがにこれは揉まれても文句言えないわ。

もしマ○ラ○とかに飛ばされたらどうすんの！

バジン、バツシャー、スライガーだけじゃ死ぬだろ！！

もうこのまま頂いちゃおうか？

俺初めてだから勝手がわからんけど。

「わ、私も初めてだ・・・あつ、だからやるなら優しく・・・」

ダメだこの神様。

マジで淫乱神だった。

あんたが真似たリインフォースのイメージが崩れ去るよ。

この人は放っておいて、転生先でよろしくやろう。

いや、寂しそうな顔してもだめだからね。

もしあつちで出てきたら今度こそおそ・・・いや、神の座から引きずり降ろされるほどのこととしてやる！

お、流石にこたえたみたい。

これで神様の性的な介入は回避。

そうになると、もうここにも用はない。

「さて、そろそろ第二の人生開始とでもこうかね」

「うう・・・気を付けてな」

「だからそんな顔しても・・・かなりヤバいけどダメだから」

俺の言葉に神様は今度こそ諦めたようで、何も無い空間に指を走ら

せる。

すると、彼女の指の軌道に合わせたアーチが現れた。だが、アーチの向こう側は眩しいくらい光のせいで見る事ができない。

神様は自分の作ったアーチを見て満足げに頷くと、また何かを思い出したようにこちらを向いた。
まだなにかあんのか!?

「あー、言いづらいことなんだが・・・」

「わかった。どうしても引き摺り下ろされたいみたいだな。協力してやるよ」

「ち、違う！転生にあたつての、こちらからの条件だ」

いや、ディケイド選択不可は十分酷いだろ。
あれになれたら一気に・・・多分オーズ（フォーゼもあるかも）までのライダーに変身できただろうにさ。

「その条件というのが、んっ！だから話をつ！」
知るか！

さあさあ早く言いなさいよ。
手は止めるからさ。

「ハア、ハア・・・条件は、転生時にお前の記憶の中から、ある記憶を消させてもらう」

「そいつは、『俺自身』のことも入るのか？」

もしそうだったら冗談じゃない。

転生しても前の自分のことを覚えてないってことは、ただ無駄な知識がある、本人としても気持ちの悪い人間になる。

「いや、自身のことは対象に入らない。お前の考える『無駄な知識』の中のどれかだ」

「それに、なにかしらのきっかけがあればその記憶も戻ってくる」

ふーん、なら大丈夫か。

んじゃ今度こそ行こうかね。

「サンキュー神様。なかなかいいもの頂いたよ」

もちろんその胸も含めてな！

「あ、ああ。喜んでもらえたならいいんだ」

それを聞いた俺は、門矢士みたいに手を振りながら、アーチに向かって歩き出す。

さあ、第二の人生のスタートだ！

向こうではあくまで紳士として過ごそう。女の子に逃げられたら悲しいじゃない？

んじゃま、レッツゴー！！

俺はアーチの向こう側に踏み出した。

―神様Side―

ふう、ようやく行ったか。

あそこまで私に馴れ馴れしいやつは初めてだ。

そ、それに私に手を出してきたのもあいつが初めてだな。

そんな奴には、ちょっとしたサービスをしてやらんと。

いや、お礼などを期待しているわけではないぞ!?

本当だ!

「一つでは戦い辛いだろうし、どうせなら『三つ』とも送りつけてやるわ!」

私は目の前に『五つ』のケースを呼び出すと、その中の三つを手元に寄せ、中身を確認してから少し手を加え、あいつの後を追わせる。

然るべき時に届くであろう。

『三台のバイク』も、同じように手を加えてから送った。

あ、負担は皆無にしたが『専用』のほうは忘れていた!

バイクのほうには仕込んだが、肝心のベルトが・・・。

まあオルフェノクの記号など、持っているとしても数少ないだろうから問題はないか。

そして、残りの2つのベルトはいらん。

『天』は今ここで処分だ。だが『地』まで処分するのは、少し勿体ない気がする。

他の世界・・・仮面ライダーと言えば、『モノリス』のところにでも送ればいいだろう。

ちょうど介入しようとした世界があつたはずだ。

『馬鹿を止めようにもライダーが足りぬ』と言っておったしから、『馬男』にでも渡せばよい。

それにしても、あいつは一体どんな世界に行ったのやら。ついでに抜いた記憶も確かめておこう。

私は空間から一冊の本と、一つのフラスコを取り出した。

本があいつが行った世界について。

フラスコの中身が、抜けたあいつの記憶だ。どんな記憶かを示すシールが貼ってあるぞ。

「世界は・・・モンスターハンター、3rdが中心、と」

括弧に『2nd Gもあるよ』と書いてあるが、特に気にすることではないか。

さて、次は記憶を確認・・・！！？

ま、マズい！

次にあいつに会ったら、絶対に描写できないことをされる！
それもまたいいかもしれんが……ってそんな場合ではない！

い、一番消すべきではないものが抜けるとは。

私の持つフラスコに貼られたシールには、こう書かれていた。

「か、仮面……ライダー」

ブログその2（後書き）

何気にリリブレとリンクしてました。

タイミングとしてはライダー大戦の少し前ですね。

でもそれぞれの世界で時間の流れはバラバラなので、この先何が起ころうとも驚かないでくださいね。

いつそ剣崎の次の世界モンハンにしようか・・・。
でもそれじゃ被るから決めれないんだよね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6742x/>

モンスターハンターカイザ～変態転生者の狩猟記～

2011年10月20日02時15分発行